

# JAグループとスポーツ組織との連携の現状

主任研究員 尾中謙治

JAグループが中長期(10年後)を見通して重点的に取り組む5つの柱のなかに、「持続可能な地域・組織・事業基盤の確立」があり、その実践方策のひとつに「連携強化による地域活性化」が掲げられている。具体的には、JAグループが地域の企業・組織と連携し、地域活性化や農業への理解醸成などに資する食料・農業のイベントの開催、地域内交流の促進、地域ブランドの開発などに取り組むことを推進している。その際の連携先として、地域に根ざしたスポーツ組織との連携も有効と考えられる。

## 1 地方創生・まちづくりに取り組む スポーツ組織

文部科学省の第3期スポーツ基本計画において「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策」のひとつに「スポーツによる地方創生、まちづくり」が提示されている。スポーツによる地方創生にあたっては、従来のスポーツから地域振興へのアプローチだけでなく、それを一歩進めて地域振興からスポーツへアプローチする発想も求められている。それを先行して実践しているのが、地域密着型の日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)やジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(Bリーグ)であり、地域とともに成長しようとする彼らの活動は拡大している。

Jリーグでは、社会連携活動「シャレン！」を2018年から展開している。これは社会課題や共通のテーマ(教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など)に、地域

の人・企業や団体・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して取り組む活動のことである。

Bリーグでは、17年から社会的責任活動「B.LEAGUE Hope(B.Hope)」に取り組んでいる。B.Hopeは「PEOPLE」(子どもと家族支援、インクルージョンなど)、「PEACE」(復興支援、街づくりなど)、「PLANET」(地球環境循環型社会)の3つの領域で、クラブ・選手・ファン・地域・パートナー企業と共にSDGsの実現を目指した活動を推進している。

J・Bリーグ以外でも地域の活性化や課題解決に取り組んでいるスポーツ組織はあり、そのような組織は、地域を活性化することによってファンの拡大などにつなげている。JAグループと同様に、スポーツ組織にとっても地域は重要な活動・事業基盤であり、地域に積極的に貢献しようとしているのである。

## 2 スポーツ組織における農業に関連する 取り組み

スポーツ組織は様々な領域で地域活性化などに取り組んでいるが、農業に関連する取り組みとしては、JAグループの新たな仲間づくりの観点から分類すると第1表のようなものがある。

J2の水戸ホーリーホックは、茨城県内の農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加という地域課題を解決するために、新規事業として農事業「GRASS ROOTS FARM」を21年9月に立ち上げている。「productsを作る」「productsを支援する」「JAと共に地域を発展させる」

**第1表** JAグループの新たな仲間づくりに関連したスポーツ組織の取組み

新たな仲間づくり		スポーツ組織の取組み
農業振興の応援団	食べて応援	選手の食事に地元農産物を活用(アスリート飯としてSNSなどで発信)、会場周辺で地元農産物・加工品のPR・販売・プロモーション活動
	作って応援	貸し農園の運営、JAの農業体験に選手が参加(ファンなどが参加)、子どもたちへの食農教育の場として体験農園を開催
	働いて応援	トレーニングの合間などに選手・スタッフが農作業の手伝いを実施(にんじくの植え付け、りんごの収穫、田植え・稲刈りなど)
多様な担い手		スポーツ組織自らが農産物(にんじく、桃、米など)を生産(収穫した農産物はホームゲームやネットなどで販売)

資料 筆者作成

の3つの考え方に基づいて農業を広め、農業の良さを伝えていくことによって課題を解決しようとしている。21年度からは約10aの畑でにんじくなどを栽培、22年度からは選手が食べている地元野菜を毎月1回届ける「GRASS ROOTS FARM BOX」の取扱いを開始している。野菜と一緒に選手のポストカードが同梱されており、クラブの特長を生かした商品となっている。

ほかにも農業生産に取り組んでいるスポーツ組織としては、B1の信州ブレイブウォリアーズやJ3の福島ユナイテッドFC、JFLの沖繩SV、V1のVC長野トライデント、ゴールデンウルヴス福岡(ハンドボールクラブチーム)、センダイガールズプロレスリングなどがある。この中のほとんどの組織は農作業の手伝いもしている。

取り組んでいる目的は、耕作放棄地などの地域課題を解決するためだけでなく、チームの活動資金の獲得や選手のセカンドキャリアの提供、地域との良好な関係づくり、ファンの獲得など多様である。JAグループとの連携については、筆者が上記のスポーツ組織のホームページや新聞記事などで調べた限りではほとんどないようであった。

### 3 JAグループとスポーツ組織との連携のあり方

JAグループとJ・Bリーグのクラブとの取組みをみると、冠命名権(大会名にスポンサー名などを付与)や広告露出権(選手のユニフォームなどに広告を掲載)、プロモーション権(会場周辺でJAグループや農産物のPR活動)、商標権・肖像権(ロゴや選手の肖像を利用)などスポンサー契約に基づく権利を活用したものが多いため。JAグループの認知度向上・ファンづくりに関する取組みが中心であり、地域の活性化や課題解決に取り組んでいる事例は少ないのが現状である。JAグループと他のスポーツ組織との取組みも同様の傾向といえる。

JAグループもスポーツ組織も地域の活性化や課題解決に資する取組みを行っており、連携した方が効率的・効果的である。単独で実施するよりも連携した方が多様な人々(組合員やファンなど)を巻き込むことができ、地域価値を一層高めることができる。それはJAグループの事業利用の増加やスポーツ観戦者の増加などにもつながる。

JAグループとスポーツ組織が連携できる取組みとしては、JAまつり・農業まつり、スポーツ大会・教室、青少年育成・次世代育成、健康づくり・介護予防(JA健康寿命100歳プロジェクト)、セミナー・講演会、「子ども食堂」の開催・支援、農業体験、ツーリズム、耕作放棄地対策などが考えられる。

特にスポーツ組織の農業に関連する取組みが少しずつ現れているなかで、JAグループはスポーツ組織と連携して地域農業の課題解決につながる農業振興の応援団などの新たな仲間づくりをしていくことが重要である。そのために、JAグループはスポーツ組織と良好な関係を構築し、情報交換や農業に関する情報発信などをしていくことが求められる。

(おなか けんじ)